

第4回 HSD ワーキンググループ 議事録

場 所：zoom ミーティング

参加者：豊田、村松、高野、高木（リコージャパン）、佐藤、高木（高木工業）、辻尾、津川、鈴木、井原（日本JC）、堀、神田

欠 席：古井、末吉、豊田、和田、岡部（敬称略）

●会議の概要

本ワーキンググループでは、複数の議題について議論が行われた。まず、ゲストとして日本青年会議所の井原様を迎え、来年度の活動計画について挨拶をいただいた。主要議題の一つである HSD ロジックツリーについては、高木工業様より作成後の評価と課題が共有され、その後、参加者間で「利他精神」のような定性目標の評価方法について深く議論された。汎用的な評価アンケートや定型フォーマットの作成といった具体的な提案もなされた。もう一つの主要議題である 11 月 25 日開催予定の「福島ウェルビーイングフォーラム」に関しては、企画の全体像から、ハイブリッド開催の推奨、広報戦略、効果的なアンケート設計に至るまで、多角的な意見交換が行われた。さらに、広報グループから SNS 運用とウェブサイト更新に関する報告と協力依頼があり、今後のスケジュールが共有された。

■井原様ごあいさつ

- ・役職: 2026 年度 公益社団法人日本青年会議所 経営デザイン委員会 委員長予定者。
- ・来年度の活動計画: SDGs の推進やウェルビーイング経営を、日本青年会議所（JC）のセミナーパッケージの一部として組み込み、全国展開する運動を計画している。井原氏は、「ウェルビーイング経営を JC のセミナーの中にですねパッケージの一部として入れ込んでそれを全国展開をしていくという運動を計画しております」と述べた。
- ・委員長予定者に就任してまだ 2 週間とのことで、現在様々なことを勉強中であると述べ、参加者への協力を求めた。

本日の議題

■議題 1：HSD ロジックツリーの評価とフィードバック

- ・高木工業所の高木氏が、以前作成した HSD ロジックツリーの評価シートについて発表。その後、参加者から多角的なフィードバックと質疑応答が交わされた。

発表内容（高木氏）

- ・評価シート作成の経緯: 以前設定した社内の取り組み（健康投資項目）について、目標や課題を整理したロジックツリーを基に評価シートを作成した。

- ・定量的評価の難しさ:

多くの項目で目標設定が定性的（「ふわっとしすぎてた」）であり、成果を客観的に測定することが困難であったと報告。高木氏：「目標としてのものが定量的な部分で測れるものっていう目標設定をしてなかったので、それを改善として、何かなればどれをもって改善とするかっていうと

ころの指標をやっぱりしっかり事前に目標設定としては設定しておかないと、それを結果としてどうだったかっていうところが追えないということがいくつかありました。」

- ・例として「健康状態の改善」や「業務の社内連携の強化」を挙げ、感覚的には改善が見られるものの、測定指標がなかったため客観的な評価ができなかったと述べた。

- ・定量的に評価できた点：服装の解禁や勤務体系の見直しといった施策については、「離職率ゼロ」という定量的な結果として確認できた。

- ・課題と今後の改善点：

具体的・定量的な目標設定の必要性：各取り組みにおいて、測定可能な指標（KPI）を設定することが不可欠であると強調。

- ・現状把握の重要性：目標設定の前提として、まず現状を数値で正確に把握する必要がある。高木氏は、「現状をまず知ってないと、次の目標というのが、その目標設定がいわゆる適正かどうかというところもあると思う」と述べた。

- ・今後の計画：今回の学びを基に、①現状把握、②定量的目標設定、③施策実施、④効果測定という PDCA サイクルを確立していく意向を示した。

フィードバックと議論

- ・定性目標の評価（高野先生、高木氏）：高野先生は「利他精神の向上」といった目標は非常に興味深いため残してほしいと述べ、評価指標として「社外のイベント関係とかの参加率」を定点観測することを提案。高木氏は、JC 活動や地域イベントへの参加を通じて従業員の自発性が高まっている感覚はあるが、参加者情報を会社で把握できていない課題を共有した。

- ・汎用的な評価アンケートの提案（鈴木様、豊田様）：鈴木様は、協議会が主体となり「企業の健康度合い向上調査」のような汎用アンケートを作成すれば、企業が目標設定しやすくなると提案。豊田も賛同し、「働きがい調査」のようなランキングや表彰モデルへの発展可能性に言及した。

- ・ロジックツリーの有効性（辻尾様、高木氏）：辻尾様は、自身も作成時に既存活動の目的が整理され、新たなアイデアが生まれた経験を共有。高木氏も、作成過程で「何のためにやっているのか」が明確になったと述べ、ツールの有効性を再確認した。

- ・定量化の難しさと定型フォーマット（津川様）：津川様は、「評価がしやすいからそれだけやる」という本末転倒の危険性を指摘しつつ、「利他精神」のような目標を外すと面白みがなくなると述べ、バランスの重要性を強調。初めて作成する人向けに推奨項目を含む定型フォーマットの必要性を提案した。

- ・ロジックツリーの意義と「価値観の共有」（鷺尾様、高木氏）：鷺尾様は、高木氏が「課題も含めて整理をできた」と述べたこと自体が「ロジックツリー活用の一歩の意義」だと強調。特に「価値観の共有」という目標に興味を示し、高木氏は社長の価値観を7項目に整理し、従業員が自己診断する機会を設けているが、「押し付け」にならないよう配慮していると説明した。

- ・他社事例との連携（村松先生）：村松先生は、三承工業様の事例を挙げ、担当者の「視座が高まる」「利他性が高まる」といった変化があったことを紹介。評価ステップとして、①推進

メンバーへのヒアリング、②全社アンケートの作成、③他社事例（三承工業など）との比較検討を提案し、これにより「この協議会ならではの評価の仕方」が見えてくると述べた。

■議題 2：福島ウェルビーイングフォーラムの企画と意見交換

11月25日に福島県で開催予定の「ウェルビーイングフォーラム」について、企画内容の共有と多角的な意見交換が行われた。

企画概要とプログラム案

開催日時・場所: 11月25日で調整中。場所は商工会議所大ホールを仮押さえ済み。

主催・共催体制: 主催は健康投資推進協議会、共催はアクサ生命。福島県、商工会議所連合会、郡山市、協会けんぽ福島支部等に共催・後援を依頼予定。

プログラム (1.5時間):

基調講演 (30分): 村松先生が登壇予定。

パネルディスカッション (60分): テーマ (仮) は「企業に効果ある健康投資を展開するために」。ファシリテーターは古井先生。パネリストとして鷺尾様（企業事例）、アクサ生命の現地アドバイザー、福島県商工会所連合会、岡部様（別視点の取り組み）が予定されている。

フォーラム後のフォローアップ: 「やって終わりにならない」施策として、協会けんぽと連携した「健康宣言」の案内や、ロジックツリーの紹介、鷺尾様を中心とした福島県内での継続的な活動などを計画。

広範な展開と開催形式に関する意見交換

- ・発信範囲の拡大: フォーラムを福島県内に留めず、東北・北海道地区にも発信したい意向が示された。

- ・ハイブリッド開催の推奨: リコーの高木様、高野先生から、より広範囲の参加者を募るためにハイブリッド開催を強く推奨する声が上がった。高野先生は「ハイブリッドであれば私も東京とか、東北、北海道地方じゃない方もどんどんお誘いしたい」と述べた。

- ・広報協力: リコーの高木様から福島支社を通じた顧客への案内、高木工よその高木様からSNSでの拡散協力、鈴木様から広報連携の申し出があった。広報用のチラシやウェブサイト情報の事前共有が求められた。

アンケート設計に関する議論

- ・設計方針: 藤本様より、ロジックツリー作成に繋がるような「答えやすいアンケート」の重要性が指摘された。

- ・回答者の分類: 上野様は、回答者を「ロジックツリーをつくっていかようとする方」と「一般の普通の社員の方」で分けることを提案。「作る立場の人と一般の社員の方とはちょっと答え方が変わるんじゃないかな」と指摘し、設問設計で考慮すべきとの意見が出た。

- ・設問内容（所属地）: 当初、福島県内の市町村を尋ねる案があったが、ハイブリッド開催を考慮し、村松先生の意見も踏まえ、県内を深掘りせず「都道府県」や「地方ブロック（東北、関東など）」単位で質問する方針となった。

- ・アンケートの段階分け: 参加のハードルを下げるため、事前登録アンケートは簡潔にし、詳細な質問（所属ブロックなど）はイベント後のアンケートに含める案が共有された。

鷺尾氏の発表内容に関する協議

・発表の方向性: 参加者にはこれから健康経営に取り組む企業が多い可能性を考慮し、鷺尾氏の発表内容をそうした企業向けに調整する方向で議論された。

・発表資料: 5分程度の発表時間に合わせ、会社紹介と取り組み状況がわかる資料を準備することが確認された。取り組みを伝える方法としてロジックツリーを見せるか、写真などにするかは別途相談することになった。

・内容の裁量: 先行企業としての色を出しすぎないように、内容のさじ加減は鷺尾氏の判断に委ねることを提案し、鷺尾氏もこれを受け入れた。

フォーラムに向けた連携と準備

・アクサ生命との連携: 会議後、アクサ生命の清田氏（？）が「全面的に集客から一生懸命させていただき」たいと述べ、次回の打ち合わせで鷺尾様からターゲット企業像などをヒアリングし、具体的な集客活動に繋げたいとの意向を示した。

・パネルディスカッションの事前準備: モデレーターの古井先生と登壇者間での事前ミーティングを調整中であることが明かされ、その場で鷺尾様の発表の方向性などを共有することが提案された。

・次回打ち合わせ: 来週の打ち合わせでは、アンケートの詳細には触れず、イベント当日の内容（アジェンダ、発表内容）に集中することが確認された。

■広報からの報告事項

広報担当のより、SNS 運用とホームページ更新について 2 点の報告と協力依頼があった。

SNS 運用について:

- ・現在、毎月 2 回の頻度で SNS を更新していることが報告された。
- ・今後、協議会メンバーの企業名が投稿に登場する可能性があるため、「もしできた時には関係者の方には事前確認できたりとか、あとは社名ぐらいだったらもう大丈夫ということあれば、そのまま SNS スムーズに発信をしていきたい」と述べ、投稿内容の事前確認の可否や、社名掲載の許諾範囲について各メンバーの意向を確認し、協力を求めた。

ホームページのメンバー記載について:

- ・現状、ウェブサイトにはコアメンバーのみが掲載されており情報が古いため、協議会の全メンバーを掲載する形に更新したいとの意向が示された。
- ・掲載情報は、申込書記載の所属・役職・氏名を基本とし、希望者は顔写真も掲載する予定。
- ・これらの依頼事項は、後日改めて事務局からメールで案内される。
- ・目標として、「この福島のフォーラムには間に合っとういうメンバーでやってるんだぞっていうのが見せられるような形」を目指し、11 月 25 日までに更新を完了させたいとしている。

今後のスケジュール確認

- ・ 第 5 回ワーキンググループ: 10 月 10 日に開催予定。
- ・ 第 6 回ワーキンググループ: 11 月 14 日（金曜日）に開催予定。
- ・ 福島ウェルビーイングフォーラム: 11 月 25 日に開催